親園小だより　和　No.２

令和２年５月２５日

親園小学校長　白石　一成

教育目標　自然と文化を愛し、心身ともに健康で知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。　〇自ら学ぶ子ども　〇心豊かな子ども　〇心身をきたえる子ども

６月1日より学校再開

新型コロナウイルス対策では、御心配をおかけするとともに、大変お世話になっています。学校は、５月１４日付けの緊急事態宣言解除、１５日の北那須３市町の協議、大田原市コロナウイルス感染対策本部会議の決定を受け、６月１日の再開に向け動いています。

学校再開の準備段階として５月２５日からは分散登校を行います。親園小では、子どもたちの登下校の安全を考え、下表のように分散登校を計画いたしました。

班	登校日	地　区　名
Ａ班	２５・２８日	南　区・滝　岡・実　取・花　園
Ｂ班	２６・２９日	北　区・荻野目・滝　沢・宇田川

８時１０分　登校
１１時１５分　下校

このように地区を組み合わせることにより、各学年の児童が、ほぼ半分になるようになっています。

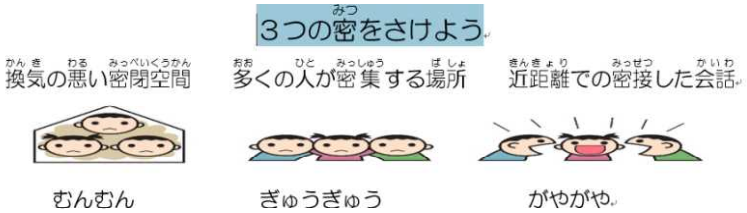
新しい生活

ニュースを見ていると、最近「新しい生活」という言葉がたくさん出てきます。３密を避ける等政府から出されたものです。

私は、「新しい生活」というと、中学校３年生の国語の教科書に出てくる「故郷」（魯迅　作）の話を思い出します。国語の教科書に取り上げられる題材は、時代とともに変化していきますが、太宰治の「走れメロス」やヘルマンヘッセの「少年の日の思い出」などとともに、教科書会社は違っても変わらずに掲載されている作品です。保護者の皆さんや地域の皆様も、ご存じかもしれません。

「わたし（主人公）」が３０年ぶりにもどった故郷で、親友だったルントウ（昔の美しい故郷の象徴）にあい、若い人たち（甥やルントウの子ども）の今後について考えるときに出てくる言葉です。当時の世の中を変えるため、せめてこれからの世代の人には、「新しい生活」をもってほしいと主人公は考えます。

まだまだ、コロナウイルス感染症については、予断を許さぬところですが、政府から出ている新しい生活を実行し、学校の教育活動が正常に動き出せるよう尽力していきたいと思います。保護者や地域の皆様の変わらぬ御協力よろしくお願いします。



学校再開に向けての準備

菊の苗作り(５月８日)

小林さんに来ていただき、菊の苗作りをしました。この日使った菊は、４月２３日に切ったものを冷蔵庫に保存しておいたものです。冷蔵庫の中に入れておいて大丈夫なのだろうかと心配でしたが、全部元気でした。大切なのは、水やりだそうです。どうしてもやりたくなってしまうということですが、小林さんの言葉を守り、育てていきたいと思います。

サツマイモを植える準備と野菜の観察準備(５月15日)

２年生の生活科に「やさいとなかよし」という単元があります。この日は、サツマイモ用の土作りとマルチがけを行いました。そのほか、プランターにトマト、ナス、シシトウの苗を植えました。

ミヤコタナゴの産卵準備(５月18日)

水産試験場の小原さんがミヤコタナゴの産卵用の二枚貝を３つ持ってきてくれました。皆さんの中には知っている人もいると思いますが、学校でミヤコタナゴを飼育しているのは、全国的にも珍しいとのことでした。栃木県では、お隣の宇田川小と羽田小と矢板市立泉小だけだそうです。今年もたくさんのミヤコタナゴが産まれるとよいと思います。

その他

ウサギ元気です

錦鯉も元気です